

出前講座「香りの科学」を終えて

広島大学マスタース会員 平田敏文

南海診療所（東広島市安芸津町風早）の大木 恵院長より、職員研修の一貫として講演の依頼があり、11月1日（土）にホテル・ヴァン・コーネルで開催された職員研修会で講演した。この研修会では、医療に関する専門的な課題を2日間に亘って研修するそうで、毎年、開催しているとのことであった。

医療関連の研修会ということで、従来の「香りの文化」、「香りの科学」の項目に加えて「香りの生理学」の項目を加えて、下記の内容について解説した。

（A）香りの文化 香りの人間との係り合い

（1）古代から使われている香料

- （a）古代エジプトの香り：「乳香」と「没薬」（香りのルーツを訪ねて）
- （b）ギリシャ神話に出てくる香り：「薄荷」と「バラ」

（2）日本の香りの文化

- （a）万葉集や古今和歌集に詠われた香り
- （b）歴史にみる貴重な香り：「竜腦」と「蘭奢待」

（B）香りの科学

（1）香気植物と香料植物

- （a）花の香りの三大女神：「ローズ」、「ジャスミン」および「ネロリ」
- （b）動物からの香料：「龍涎香」と「ジャコウ」

（2）香りを決める化学物質

- （a）マツタケの香り；バニラの香り；ワサビの刺激臭
- （b）香りの芸術 - 香水や食品フレーバーの開発

（C）香りの生理学

- （1）香りの伝達機構：嗅覚器官と脳への伝達
- （2）アロマセラピー（芳香療法）